

令和7年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

○評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

・「改善策として考えられること等」の欄には、それぞれの質問項目に関して、その改善策として考えられること等があれば記述します。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価委員の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○体験学習を重視した教育活動の実践、授業改善を目的とした校内授業研究など、小中が連携して取り組んでいる。 ○学園便り等で説明をしている。	A	○学園便りは、今後も継続して下さい。 ○学園便りや各行事でのあいさつで説明して下さっていると思います ○学校だよりなどで取り組みの様子がよくわかります。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	B	○教室には避難経路があるが、廊下にはないので、どんな時にどこに逃げるのかの矢印の表示を付けたほうがよい。 ▲概ねできている。一部整頓がなされていない特別教室や、倉庫などがある。物品と保管場所を人事異動があっても誰でもわかるように「見える化」が課題といえる。 ○朝会や放送等で適宜状況に応じた指導をしている。 ▲ヘルメットの着用は、学校だけでなく家庭の協力もおおぐ必要がある。 ▲学校側からの働きかけや指導はしていると思う。家庭側の意識の差が出ているため、交通安全面では、たりないと思う。	B	○放課後、学童が自転車に乗る機会がある、意識して着用している、子ども食堂には自転車が多く閉めているが、ヘルメットは前かごにおいてある。 ○訓練等については定期的に実施されていると思いますが、想定外の危機について話し合いや構想を練っておくことも今後良いかも知れません。 ○登下校時などの子供たちの様子からは安全に気を付けているように思えます。しかし安全・安心については「これでよい」ということではなく、常に留意すべきことであるという意味でB評価としました。 ○実施日時を事前に示さない避難訓練は実践的でよい試みであると思います。 ▲ヘルメット着用がみなできていない。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	○管理職の先生方による声かけや、学期末の日課調整など改善に向けた取り組みがなされている。 ○「ノー残業デー」は本校には無いが、もしやるとしたら部活の影響の少ない「水曜日」など設定しやすいと考える。 ▲不要な業務を減らしていくことが必要	B	○以前より休日等に車の数が減少している。早く帰ることが身についている。 ○働き方改革は国・県・市の理解と努力も不可欠のように思われる。 ○ほぼできていると思いますが、教職員の方にそのような内容を聞く機会がない。 ○教員の職務は学校にいる時間だけでは終わらないことが多々あると思います。働き方の改善は一つの学校の取り組みも大事ですが、市・県ひいては国のレベルでも考えていかなければならないと考えています。 ○あまり無理のない働き方がよい。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	○全14回の研修に加え、他校の実践を学ぶ機会も設定している。 ○来年度は行事と研修の日程を調整して設定している。	A	○学校訪問時、教室を見学機会が有り、楽しそうに勉強している。 ○先生方の努力が授業に出ています。 ○外国語指導、ICT活用を工夫して、成果が感じられる。 ○生徒数の少ない学園において、発揮しやすく成果が現れやすい利点とあります。 ○授業を見せていただく「評価の観点」の各項目がしっかりと実践されているのがわかります。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	○概ねできている。校務システムを用いた生徒指導上の情報共有体制ができている。 ○毎週行う職員で行う生徒指導理解の場も設定されている。校務システムを活用し、以前よりも円滑に情報共有ができるようになった。 ▲児童生徒のあいさつや適切な言葉遣いには、まだまだ課題があるかと思えます。	A	○児童・生徒と先生方との心温かな信頼関係が築かれています。 ○城西大学の研修参画・支援が行われている。 ○校外で子どもたちの言葉遣いに好感がもてます。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	○定期的に研修の時間を設定している。	A	○不祥事根絶の大切さが教職員に根づいているように思います。 ○先生方のご様子、子どもたちのまなざしから「評価の観点」の一つ一つが実践されていることを感じます。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	○概ねできている。担任によって対応の差がないよう、管理職による指導やケース会議の実施について今後も進めていきたい。 ○他校から来た児童生徒もすぐになじめるような温かい雰囲気学園全体で作られている。現に以前の学校で不登校気味だった子どもんとか登校できるようになったケースが見られます。からかい案件や不登校児童に対してもきめ細かな対応をしている。 ○不登校児童生徒に対して、チームで取り組んでいる。	A	○授業中、先生方の児童・生徒への言葉かけにあたたかさを感じています。 ○教室訪問をさせていただくと、先生方と児童・生徒のあたたかくなごやかな雰囲気が感じられます。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	B	○児童生徒一人一人に寄り添った支援が担任の先生方を中心にできている。 ○通常級でも特性を持つ児童生徒が多いため、校内研修等で特別支援教育についてさらに詳しく学ぶ機会が必要 ○児童生徒や保護者への特別支援教育の理解について、年度のはじめに伝えられる機会があるとよい。	B	○子どもは学ぶ権利がある、平等主義で行ってください。 ○児童一人ひとりを大切にしている姿勢を先生方に感じます。 ○特別支援教育は人間尊重の面から教師として、また一人の人間として深く広く学び、できることから実践していくべきものと考えます。 ○先生方も大変お忙しいことと思いますが特別支援教育を必要としている児童生徒その保護者にも心を寄せ続けていただきたいと思えます。 ○将来、教員になろうとしているスチューデント・インターンシップ生(城西大)に特別支援教育のあり方を丁寧に指導していただいている内容から、個に合わせた教育をしていることがうかがえる。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	B	○ホームページの更新頻度や内容がよくできている。 ○学校応援団を中心にして地域人材が授業や諸活動で生かされている。	A	○子ども食堂に参加している、年下の子どもの面倒を見ている。又、先生方が食堂風景の見学が有ります。 ○毎月の学校だより楽しみにしています。特に、児童生徒の活躍の内容には目を細めています。 ○学校応援団から児童生徒のあたたかい情報が多々ある。応援団さんへの協力依頼事項に付加価値がある。 ○様々な面で発信されていると思います。 ○学校運営協議会は常に真摯で前向きな議論がなされていると思えます。 ○学校だよりは大変読み易く学校の様子がよくわかります。 ○HPIはとてもみやすく、わかりやすいものになっている。 ○地域との連携も上手に活用している。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	A	▲開校して10年がたち、当初につくられたシステムのままではどうなのか・・・と感じるところもあります。I期、II期、III期の特別活動のシステムや、部活動の小学生参加のあり方など小学生の高学年を育てて中学1年生につなげることができるような体制を見直してもいいのではないかと思います。 ○本校の強みであり、根幹である。同僚性を高めて、連携を深めていきたい。 ○分掌や授業研究の他にも職員室での会話等、小中の垣根なく情報交換する文化が城山学園の良いところである。 ○職員室内で、いつでも情報交換ができている。	A	○開校10年となり、良い所、改善するところ、再度見直しをした方あると思えます。 ○小中連携の推進が十分進んでいて成果が上がっています。今後益々の発展が期待できます。 ○連携とれていると思えます。小学生・中学生が入り混じって登校する風景はほかでは見られないほほえましいものだと感じています。 ○学校生活の中の一部ではありますが、大運動会などの行事の中での小中の連携がすばらしいと思えます。 ※小中一貫校に特化した質問項目を設定するべきである。